

作業シート 1 a SDGs の課題を利用して自分たちの班のテーマを見つける

2021.07.01

このシートで作業は、班での話し合う前に自分の考えを整理するためのもの。
(探究では「他者への的確な伝達能力」をつけることを重視している。)

1 SDGs の 8 つのテーマとそのターゲットから研究テーマを選ぶのではなく、自分の興味・関心を引き出すための手がかりとする。【個人作業・10分】

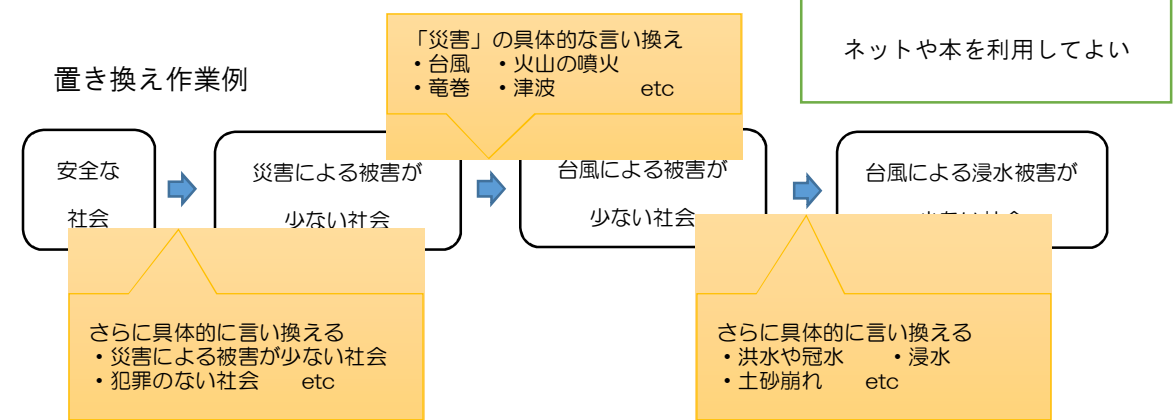
| | 興味・関心のある キーワード | 関連する SDGs の番号とその課題 |
|---|-------------------|---|
| 例 | 微生物 | 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう |
| 1 | | |
| 2 | | <ul style="list-style-type: none"> ・「課題」については、レジユメの表の「テーマ」レベルはもちろん、「具体的な研究課題（例）」レベルでまとめられることを目指す。 ・1～5まで、すべての欄を埋める必要はない ・ネットや本でキーワードについて調べながら考えてもよい。 ・原則個人作業だが、考えがまとまらないときは、同じ班の人にヒントをもらってもよい。 ・課題→キーワードの流れでも、キーワード→課題の流れでもよい。 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

2 SDGs で挙げられている課題を自分の住んでいる社会や自分たちの暮らしに置き換える。【個人作業・15分】

| | SDGs の番号 とその課題 | 自分たちの身近な社会や暮らしとの関連 |
|---|-------------------|--|
| 1 | | |
| 2 | | <ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちの身近な社会や暮らしとの関連」を考えながら、なぜ自分がその課題に取り組もうと思ったのか、動機・理由も言葉にしながらまとめていく。 ・この作業を通じて、自分が取り組みたい課題をひとつに絞っていく。 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

3 抽象的で耳障りのいい言葉を、具体的かつ客観的で何をすべきか明確になるような言葉に置き換えていく。【個人作業・15分】

【言い換えておくべきキーワード例】
平和 平等 安心・安全 健康 幸福 多様性 豊かさ 絆 活性化 重要
よりより〇〇 最適な〇〇 人間らしい〇〇 〇〇にやさしい〇〇 〇〇



4 自分たち班で探究してみたい《解決すべき課題》をまとめてみよう。【個人作業・5分】

| |
|---------------------------|
| SDGs の番号とその課題 |
| 自分たちの身近な社会や暮らしの中での解決すべき課題 |
| その課題に取り組むべきだと考えた動機・理由 |

■ ここまでの内容がまとまったら、班の中で各自の意見を発表し合い、どの課題で探究活動を進めていくかを話し合う。

作業シート 1 b SDGs の課題を利用して自分たちの班のテーマを見つける

2021.07.01

5 班の各メンバーが探究してみたいと言っている《解決すべき課題》をまとめてみよう。【グループ作業（発表と質疑応答）・15分】

| | SDGs の番号 とその課題 | 自分たちの身近な社会や暮らしの中での 解決すべき課題（それぞれの動機・理由） |
|---|-------------------|---|
| 1 | | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

6 各自が提案した《解決すべき課題》を次のような観点から評価し合い、グループで取り組む課題を絞っていく。【グループ作業（討議）・15分】

- ・ ミニ課題研究として取り組んで自分たちが興味を持つことができそうか。
- ・ 自分たちが「探究 I」の時間内で答えが出せそうか。
- ・ 社会的かつ学術的にも意義のあるテーマか。

この評価のポイントを疎かにしないこと。

話し合っって決まった課題を、「本日の活動のまとめ」の「2 解決すべき課題」に記入。

7 《解決すべき課題》について、どういうことが分かっていないといけないのか調べてみよう。【個人作業・15分】

- * 《解決すべき課題》からキーワードや関連ワードを取り出す。
（各クラスに配布している本や Wikipedia などを活用。）

Wikipedia を利用する場合、「関連項目」やリンクを貼っている事項などにも注目する。

- * 取り出したキーワードや関連ワードから先行研究を調べる。
（Google Scholar で先行研究を調べてみる。）

検索キーワードや論文の表題をメモする

Google で Google Scholar と入力すれば、Google Scholar（学術論文を検索するエンジン）に行ける。さまざまな検索キーワードや、それらを組み合わせたりして、いろいろと検索してみる。

作業シート 2b

自分たちが今漠然と考えている見通しが正しいかどうか、調べるための予備調査で、スケジュール表の11月4日に予定しているアンケートとは別のもので、今回の結果を踏まえて、リサーチ・クエスチョンや仮説、検証方法などを中間発表(10/21)までに再検討していきます。

- 4 2、3をもとに自分たちでリサーチ・クエスチョン、研究方法、必要となる統計データや予備調査(アンケート)の内容をまとめていく。

【グループ作業・40分】

テーマ(～について)

リサーチ・クエスチョン(～について、～か ← 作業2a-3を踏まえた問い)

研究方法・検証方法(リサーチ・クエスチョンをどうやって調べるか)

必要となるデータ(統計データや自分たちのアンケートで調べられることなど)

下に紹介したサイトで、必要となるデータを探してみる。

具体的なデータは次のサイトの信頼できるデータを利用する。

まずはこれから ⇒ 地域経済分析システム RESAS (<https://resas.go.jp/>)

国勢調査などの元データなら ⇒ 政府統計の窓口 (<https://www.e-stat.go.jp/>)

経済関係なら ⇒ 統計：日本銀行 Bank of Japan (<https://www.boj.or.jp/statistics/index.htm/>)

国際比較なら ⇒ 主要統計 - OECD (<https://www.oecd.org/tokyo/statistics/>)

この予備調査は、9/2に完成させて、9月中に実施できるようにします。

- 5 4でまとめた自分たちの予備調査のアンケート調査の計画を立てる。

【グループ作業・40分】

自分たちの仮説(例「女子生徒に比べ、男子生徒はごみの分別収集に対する意識が低いはず」)

アンケートの目的(どういう事柄を調べたいのか・どういう事実が分かればよいのか)

アンケートの実施対象(クラス全員)

仮説の例を調べるなら、アンケートの対象がクラス全員で、かつ、性別欄は必須となるよね。

アンケート対象で特定しておくべき属性(性別、年齢、職業、学年、未婚、家族構成)

アンケートの質問項目

- 1 回答者によって異なる受け止め方をしている場合があると、その質問に対する回答は利用不能。
- 2 人は無難な答えを選びがち。「普通」「どちらでもない」が多くなると傾向がつかめない。
- 3 あとでパソコンで得点化するときにとっても便利。無回答も数値として処理する
- 4 回答個数に制限があると回答者の意識を偏りなく、抽出できなくなる。
- 5 だんだん該当する回答者の数が少なくなり、有効なサンプル数を確保するのが困難。さらに集計・分析することが面倒くさくなる。
- 6 統計的に処理するためには、内容をいくつかに分類し、記入された内容が言及している項目をチェックして処理すれば、何とかできます。
- 7 いうまでもないことです。具体的な作り方の資料は、夏休み前に配布予定です。

※9/2の探究Ⅰの時間に完成させられるようにする。

アンケート作成上の注意点

- 1 回答者が勘違いするような紛らわしい言葉を使わず、明快な言葉にする。
- 2 「普通」「どちらでもない」といった答えを選択肢に入れない。
- 3 選択肢の配列は、「良→悪」(または逆)の順になるようにしておく。
- 4 回答の個数の制限をしない。
- 5 最初に答えた質問への答え方によって、さらに別の質問を行う多重質問を避ける。
- 6 自由回答欄を設ける
- 7 個人情報の保護には十分に注意し、人権侵害となるような表現にも気をつける。